

## 性教育イベントを開催して

牧 仁美 (Reiwa '19)

7月10日(日)、愛知県西尾市一色町で「子育て・多世代交流プラザ」主催の『まちはぐ〜子育てを楽しむ・繋がる・育む』という子育て世代向けのイベントが開れました。そのイベント内にて性教育トークショーを行い、助産師さんや企業の方にスピーカーとしてご参加いただきました。性教育とは「命を守るもの」「自分の体を愛しく感じるもの」という事をより多くの方に伝えたいという思いから開催したトークショーについて、開催するきっかけや経緯・トーク内容・参加者の反応を綴っていこうと思います。

新型コロナウイルスが流行し出した2020年春、西尾市では別の事件で激震が走りました。2020年6月2日、西尾市内の公園で袋に入った乳児の遺体が見つかりました。公園内のトイレで出産後に遺棄したとみられ、その後22歳の専門学生が死体遺棄・保護責任者遺棄致死容疑で逮捕、起訴されました。



トークショーの様子

この事件は西尾市内に大きなショックを与え、そして、この事件をきっかけに一人の助産師が立ち上がりました。その助産師は、市内で出張助産院として活動している「りこ助産院」の助産師荒川涼子さんです。荒川さんは「このような事件が二度と起こらないように…」と正しい性教育を伝えたい、性関係で困った時相談できる人が身近にいる環境を作りたい、1人で頑張らなくて良いことを伝えたい…！と、自分には何が出来るかを懸命に考えました。そしてある行動をとることにしました。

その行動は『西尾市内小中学校へ「地域の保健だより」として性教育のお便りを配布する』ということでした。西尾市教育委員会へ出向き、荒川さんが作った「地域の保健だより」を配付依頼書と共に提案をしました。教育委員会の方は、荒川さんの想いや性(生)といのちのお話の大切さ、西尾市で起きた出来事の表面的なことではなく裏に存在する問題点なども理解してくださったそうです。しかし、性教育に関するお便りを配布することはやはり容易くはなく…「保護者による受け止め方に大きな差がある可能性が高い」ということで配布は難しいと判断され、実施には至りませんでした。しかし、荒川さんの行動がきっかけで西尾市内多くの人が「性教育」というものを考えるきっかけとなりました。全国的にも「日本の性教育はこのままでいいのか」と議論されることはありますが、具体的な変化は起きないまま進んでいる教育。しかし、教育現場を離れば、性教育講座を開催する起業家は増えています。また、一時期ブームになったCLUB HOUSE\*<sup>1</sup>に性教育やそのあり方を語る部屋ができるなど、現在性教育ブームが密かに起こっています。西尾市内でも「性教育講座を開催してほしい」という声が多数聞こえるようになりました。そのうち「せっかくなら多くの



人に届けたい」、「思春期の保護者だけでなく、小さなお子様を育児している保護者にも知ってほしい」という思いから、子育て系イベント『まちはぐ〜子育てを楽しむ・繋がる・育む』にて性教育トークショーを開催することとなり、スピーカーはもちろん荒川さんをお願いしました。また、昨年から「性教育を伝えたい」と生理ショーツの開発に加え性教育についても多く学んでいる会社「follg」さんにもスピーカーをお願いし、より多くの意見や知識を話せるトークショーとしました。「性教育」と一括りに言っても多くの観点があるということで、トークショーは3つのテーマに分けて行いました。

### 第1テーマ「性教育ってなんだろう」

成長に伴う男女の性器に関することや性行為の注意点が学校教育で今も行われている性教育ですが、性教育の本質はなんなのか…。この本質が伝わっていないからこそ「性教育は恥ずかしいもの」という世間の認識を生んでいるのではないのでしょうか。トークショーの中であった『自分の身体は大切な宝物なんだと知ることが性教育』という言葉がとても印象的でした。保育園入園前後の子どもがふざけて性器を見せる行為、少なくないと思います。その時皆さんは親としてなんと声をかけますか？「恥ずかしいからしまいなさい」…私はそう声をかけていました。しかしこの発言は、『性教育は恥ずかしいもの』という概念につながる声かけであると気づいていませんでした。トークショーの中で荒川さんはこう声かけをするよ、と話しました。「あなたの大切な場所だからしまおうね」こう声をかけることで、『恥ずかしい』ではなく『大切』という意識になるということを学びました。私たち大人が無意識に行なっている声かけを少し意識することで、子どもたちへの性教育の概念を変えることや「自分の体は大切なもの」と気づくことに繋がると知りました。また、内科などで問診時に子どもの胸を見せる時「めくっていい？」と声をかけることや、オムツ替えのとき「おむつ替えるね」と声をかけ、子ども自身の許可を得る大切さも同時に学びました。

### 第2テーマ「プライベートゾーンケア方法について」

多くのママから質問を受ける男女の性器の洗い方を、絵本を用いて紹介しました。赤ちゃんの時期から正しい洗い方



性教育に関する活動や絵本などの紹介ブース

をされることで子どもたち自身が正しい洗い方を「当たり前」として行い、性トラブルを防ぐことにも繋がります。同会場で行うチアダンスの発表直前に行ったトークショーだった事もあり、夫婦で聞かれる方も多く見られました。夫婦で知識を得る事で夫婦間の性教育への考えの違いなども解消する事ができ、より子どもたちにとって多くの味方を得られる時間だったのではないかと思います。

### 第3テーマ「性教育で子どもたちを守ろう」

ネットが当たり前になり、スマホをもつ子どもたちも増え、SNSの利用も低年齢化しています。SNSのメッセージ機能を使った異性からのメッセージをきっかけに事件につながるケースもあります。子どもたち自身が、SNSなどの





今少しずつ性教育ブームが到来していますが、まだまだ浸透していないことも多く、懸念されます。世の中の状況が大きく変わろうとしている中で、性教育は変わらないままで本当に良いのでしょうか…。



## アルファ・エクスプロレーションが開発している音声SNSアプリケーション

## ＜いくさ世を生きる私たち＞

杉本 浩子 (Amelie '10)

お話しは、まず、ウクライナについての美しい写真入り資料からはじまりました。その数々は、我が国から約8,000キロと離れた国の多くの魅力を教えてくれました。「鮮やかな色彩の刺繍文化や絵付けの民芸品は、長い冬の生活から生まれた伝統の中の一つです」と話された彼女からは、祖国への深い愛着を感じました。祖国を誇りに思っているからこそ、ウクライナの伝統を紹介し、もっと多くの事を知ってもらいたいという意気込みを感じました。



愛する祖国が、今隣国によって攻撃をうけている。小麦畑は燃やされ、何万人という命が失われている、という現実直面した時、彼女の日々は一変したのでしょうか。今の彼女の活動の原点をたどると、日常を奪われた人々のために何かしなくては、避難生活を支えるため何かできるはずだ、と思ったことからではないでしょうか。そうした抑えられない気持と戦いながら過ごしているのだと思うと、胸が押しつぶされるようでした。私たちができることは、まだまだ長期化が予測されている戦いの圧力に彼女が力尽きてしまわないように、絶えず支援の手をつなぎ続けて行くことではないかと感じました。さて、リュドミラさんのお話しの中から「これは日本流？」と思われていた二つの事と、おすすめの映画をご紹介します。



知らないことばかりだったウクライナ紹介

① 2018 年彼女は日本ウクライナ文化協会を立ち上げました。日本流の教えを守って、理事長は男性との二人体制にしましたが、彼は殆ど動きません。「それが必要なことなんですね」とのこと。後にこの活動が認められて、ウクライナ語学校設立の許可を大使館からもらうことができました。

② 日本人女性はパートナーのことを人に話すとき「主人」と話すことがふつうと聞きましたので、私もその言葉を使っていました。この会の皆さんは、「夫」の他には「つれあい」「つま」などと呼んでもかまわないという意見でした。ウクライナではパートナーをドウルジェイナという呼び、概ね、女性も男性と同じように畑もやり、家のこともする同志という意味を表します。夫婦関係は日本とは少し違う気がします。

③ 映画「赤い闇 スターリンの冷たい大地で」2020 年 8 月全国放映 歴史上の悲劇<ボロドモール・飢饉> (1932～33) が題材。ウクライナの 1,000 年以上の歴史の中でロシアとの軋轢は何度もありました。その中でも、イギリス



日本とウクライナの生活のこと

人記者の取材で明らかになった事実を基にしたこの映画は、スターリンの最も忌まわしい侵略の数々（ドネツク、ホロビアンスク地方にロシア人を移住させたという）とウクライナ国民の悲劇を描き出しており、多くの賞をもらうことになりました。

最後に、ロシアの侵攻が始まってから国外に逃れた避難民は人口の 4 分の 1。多くはポーランド等ヨーロッパの国々ですが、遠く離れた日本にも 1,800 人余りの避難民がいます。言葉の壁を乗り越えて暮らすことは、苦勞も多いと推察できます。リュドミラさんらの力が彼らのところに届くように、ウクライナの子どもたちの助けになるようにと、参加した方々からの募金を直接お渡しすることが出来たのは幸運でした。一刻

も早い平和の訪れを祈るばかりです。最後にウクライナ語を教えてくださいました。

「こんにちは ドブロコ ドウニ」 「ありがとう ジャークユ」



## <講演内容のまとめ>

|                       | 項 目                                  | 詳 細                                                                                                                                             |
|-----------------------|--------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国<br>土<br>と<br>経<br>済 | 故郷ジトーミル市<br>(ジトームイル)                 | ジトーミル市の州都 面積 65 km <sup>2</sup> 人口 263,507 人 (2021 年)<br>ロシア語の学校が多く、ウクライナ語の学校は3校だけ                                                              |
|                       | ジトーミル州                               | 人口 1,389,500 人 ウクライナ第5位 (2021 年)<br>都市人口 775,400 人 (56%) 農村人口 614,100 人 (44%)<br>男性 644,800 人 (46%) 女性 744,700 人 (54%)                          |
|                       | ウクライナ全土<br>(603.500km <sup>2</sup> ) | 肥沃な黒土 チェルゼムと呼ばれる (地球の33%) 小麦7位 大麦5位<br>ひまわり油1位 (とてもいい香りがします) トウモロコシ3位<br>ジャガイモ4位 養蜂生産5位 (花の香りが特徴的、農作業のお駄賃! に頂くのが常)<br>マンガン鉱と黒鉛の鉱床は世界2位 鉄鉱石は世界3位 |
| 行<br>事                | イースター祭                               | ピサンカと呼ばれるイースターエッグはピサチョークという蠟を使った装飾で、伝統工芸に認定されている                                                                                                |
|                       | クリスマス                                | 12月25日は歴史が浅く、ウクライナでは1月7日に家族で祝う。クリスマスキャロルを歌い、12種類の魚と野菜料理のクリスマスディナー (クチャー、ウブドゥワール・ドライフルーツの飲み物など) を用意する                                            |
|                       | ヴィシヴァンカの日                            | 5月第三木曜日 民族衣装を着て踊りを踊る                                                                                                                            |
| 文<br>化<br>と<br>伝<br>統 | ウクライナ料理と<br>飲み物                      | ボルシチ、バレニキ、サーロ、キエフ・カツ、ウブドゥワールは代表的料理<br>パンは命の象徴 (コロワイ) であり、儀式内でよく重用されている                                                                          |
|                       | ウクライナ刺繍<br>(ヴィシヴァンカ)                 | 長い冬に刺繍を行い、民族衣装を仕上げる<br>女性が儀式で被る花飾りは、スラブ民族がシュメール文化から受け継いだ『平和の晴れ渡った空』のシンボルであり、平和への願いが込められている色にはそれぞれ意味があり、祈りの象徴にもなっている                             |
|                       | ペトリキウカ塗                              | 2013年無形文化遺産になった、猫の毛を集めた筆により画いた、繊細な筆使いと鮮やかな色使いが美しい色彩画                                                                                            |
|                       | モタンカ人形                               | 太陽神のサイン、祈り事に作られるが結婚式にもお守りとして用いられる                                                                                                               |
|                       | コサック (精神)                            | 主にウクライナ東部ハルキウ近辺を支配し戦う人々にみられる<br>14世紀から戦いの地となるウクライナ東部を守る DNA を持つ人々馬・剣・ハンドウラの民族楽器が象徴的                                                             |
| そ<br>の<br>他           | ウクライナに由来がある有名人                       | 大鵬、ダスティン・ホフマン、シルヴェスター・スタローン、レオナルド・ディカプリオ<br>デイヴィット・ドゥガベニー、スティーヴン・スピルバーグ、ミラ・ジョヴォヴィチ                                                              |

パンは命の象徴



コロワイ

ウクライナのクリスマス



クチャー



ディードゥフ



ウクライナのイースター祭



ウクライナのイースターエッグ  
「フィサンカ」



図: 講演資料より

## 「いくさ世の私たち～ ウクライナを知ろう！」アンケート集計

参加者 25 名 集計数 21 枚 (森田集計)

1. 講演会を知ったきっかけを教えてください。

・ウィルあいち交流ネットから (13) ・所属する女性団体から (7 内地域開発みちの会5) ・その他

2. 講演はいかがでしたか。感想をお聞かせください。

・とてもよかった (20) ・無回答 (1)

3. 2のお答えの理由あるいは関連する感想やご意見を自由にお書きください。

★共通する意見には、下記のものがありました。

**ウクライナがより近い存在になった**

**リュドミラさんの故郷を思う気持ちに胸が締めつけられた**

**ウクライナの古い歴史が分かって良かった**

**刺繍や建物などの色彩が豊かで、素晴らしい**

**早く平和になって欲しい**

★その他の個別の意見です。

- ・文化交流に積極的な姿勢が良くわかった。マスコミや本では分からない歴史や習慣を知ることができ興味が湧いた。
- ・立場が違ったらと想像すると恐ろしくなります。
- ・ユーモアを交えてとてもわかりやすく、くわしくウクライナについて話を下さったので、ウクライナに対して理解が深まった。子どもたちにウクライナの絵本「てぶくろ」をストーリーテリングで語っています。そのとき、ウクライナのことを話したい。
- ・ウクライナの存在を熱く方々下さった事に母国愛の強さを知りました。ウクライナの国が一つ国であることを世界中が認識しています。お身体に気をつけて頂き、ウクライナを発信し続けてください。応援いたします。
- ・地域でウクライナ支援会をしてお世話になって今日来てみました。とても興味深い話しで良かったです。
- ・ウクライナの文化遺産、ししゅう、食べ物など、知ることができて良かった。ボロドモールについて知って、今のウクライナの抵抗の力が理解できた。



図：講演資料より

- ・ウクライナの豊かさに驚きました。ロシアがNATOに入れたくないという理由がよく分かりました。
- ・ウクライナがもともと独立した国であったのは知っていましたが、ロシアがこんなに浸食していたのには驚きました。また、日本は国境をロシア、中国、韓国に接しているので、いつ侵攻してくるか分からないので、肝に銘じています。意志を強く持たれていて、すごいと思いました。
- ・故郷の惨状やウクライナに住む家族を思い、途中涙する場面に胸が締め付けられました。  
「私は『奥さんじゃない』」という言葉の後、「主人」と話されていたので、実はやや違和感が……。質疑応答の際、その話題に触れていたのが興味深かったです。
- ・他国のことを知ろうとしていなかった自分に気づく事ができ、今後もっと視野を広げていきたいなと思いました。  
楽しくわかりやすいお話で、ウクライナの事をもっと知りたいと思いました。ウクライナの文化が戦争を機に広がっているという見方は、広い気付きのある言葉だなと感じました。少しでも早く、ウクライナ及びロシアの一般の方が安心して暮らせる日が戻りますように・
- ・日本で知ることのできるウクライナではなく、川口さんから生のウクライナの情報を教えていただくことができ、大変興味深かったです。川口さんのウクライナへの愛情を感じました。ロシアへの悔しい想いをご本人からのお言葉から肌で感じました。今のウクライナを知ることができて良かったです。
- ・ロシアとの付き合い方を長いスパンで考える為にどんな事が大切なのが 文化についても共有できるような政治が上手にできると良いなと思いました。
- ・直接お話を聞いたことは幸せでした。ただ、ウクライナの実情を思うと、(テレビで見る所は悲惨なところばかりなので) 複雑な気持ちになります。ウクライナの自然と豊かな黒土を守ってほしいと思います。
- ・ウクライナの文化が好きになりました♡ひまわり、小麦、刺繍も素敵です♡川口リュドミラさんの話 とても楽しかったです。あっという間で もっともっと 聞きたかったです！！
- ・ウクライナという祖国を大切にされていることがとてもよく伝わりました。平和を考えると、お互いの国を大切にするという原点にひきもどされました。こんなに大切な文化を、人をこわそうとしていること、破壊していくこと(されていること)のくやしき、つらさ、にもっとよりそえるようになりたい。
- ・誤解していたことが、文化、産業面などたくさんあり、新たな学び、知見を深めたいと考えました。コサック、ドゥルシーナの生き方に共感を覚えました。もっと仲良くなりたいと思いました。(以上、ほぼ原文のままの記載です)

リュドミラさんの講演会は大変好評でした。現在、第2回目の講演会を企画しています。

タイトルは、

『歴史の中の人権』

またご案内しますので、ぜひご参加下さい。



## 《なかま de セミナー》

交流ネットでは、会議の度に会員が交互に講師になって、短時間の楽しく有意義なミニセミナーをしています。

### 6月のセミナー 紙面クルクル

金森 叔英（ベリーズ'18）

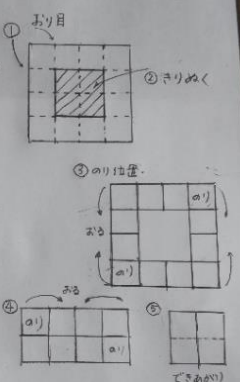
「四面クルクル」を活用しての自己紹介やアイスブレイクの持ち方を提案しました。私の本業は水道方式の学習塾で子どもたちと学びを重ねていくことです。その中で大切にしているのは実物に触れる、自分でやってみる事。このような工作も時々取り入れています。時間が短かったのですが、自分の名前の漢字で作った人、好きなものを並べて人、経歴を書いた人、なかなかの大作が出来ました。自分の事を『起承転結』で伝えるのはなかなか難しい事です。自分と向き合うこと自分の原点を思い起こすことで次の活力にもなってくれたらいいなと思っています。



#### 作り方は簡単！正方形の紙とはさみを用意

《作り方》

- ① 正方形の用紙を縦・横 4 等分の折り目をつける
  - ② 真ん中の 4 マス分を切り抜く
  - ③ 右上・左下のマスにのりをつけ、折って張り合わせる。
  - ④ 左上・右下のマスにのりをつけ、内側に折り、張り合わせる。
- できあがり！真ん中の切れ目を外側に、外側に開いていきます。



### 7月のセミナー SDGs カルタ

森田 登喜子（ウィル2000）

また英語の略字～？ SDGsなんて、なんの関係もないわ！の声が聞こえます。日本語にすると、「持続可能な開発目標」とさらに分かりにくい？ でも、持続可能は使い易かったのか、今けっこういろいろな場面で聞きますね。

簡単に言うと、SDGs はヒトが地球で生き延びるために必要な 17 の目標と 169 のねらい、気軽に読むと私たちの回りの問題と世界の根っこが深く繋がっていることが分かります。

これをほっとくのはもったいない、と SDGs をカルタにしたのは「ゴミ処理会社の加山興業株式会社さん」。ゴミの問題は、私たちの生活の問題、生き方の問題、社会の問題！ということで、いろいろ工夫した楽しいカルタができました。

引いたカルタに書いてある言葉で浮かんだ日頃の思いをオシャベリしました。たくさんの発見がありました！盛り上がりました～。



#### ▼ウィルあいち交流ネット参加グループ

さわらび会 / メンズリブ名古屋 / 女性学 '98 の会 / グループキーツ / ウィル 2000 / IWL / ウィル Do 2002  
サーティネット '05 / ベリーズ 18 / Step S07 / Fem.'09 / Amelie '10 / ひかるよ '15 / そだね！ 2017  
Hey Say Final / Reiwa '19 / みつ 2020 / リモート 2021

編集発行 ウィルあいち交流ネット  
協力 (公財) あいち男女共同参画財団  
2022 年 10 月発行

ウィルあいち交流ネットとは：  
ウィルあいちセミナー等の受講修了生による  
自主活動グループで組織された団体です。